

## 平成 28 年度 ISO/TC46/SC9 国内委員会 第 1 回委員会 議事録

1. 日時：平成 28 年 7 月 14 日(木)10:00～11:40
2. 場所：情報科学技術協会 会議室(東京都文京区小石川 2-5-7 佐佐木ビル 4 階)

### 3. 出席者：

委員長	宮澤 彰	国立情報学研究所(SC4 リーダ)
(代理)		
委員	松田 稔広	国立国会図書館収集書誌部 (SC9 リーダ補佐)
	原田智子	鶴見大学
	木俣洋一	一般社団法人日本出版インフラセンター
	追川正人	一般社団法人日本音楽著作権協会
	秋元良仁	凸版印刷株式会社
	駒崎武一	一般社団法人日本映像ソフト協会
	丸山信人	一般社団法人日本雑誌協会
	畑 陽一郎	一般社団法人日本レコード協会
	前沢 克俊	大日本印刷株式会社
事務局	光富 健一	一般社団法人情報科学技術協会

(敬称略・順不同)

\*菅野育子委員長、小出啓介委員は欠席。

### 4. 配布資料：

P.3-10	平成 27 年度 ISO/TC46/SC9 国内委員会第 2 回委員会議事録
P.11-20	資料 1 平成 28 年度戦略的国際標準化加速事業(政府戦略分野に係る国際標準開発活動)実施計画書
P.21-39	資料 2-1 WG1 国内委員会議事録及び New Work Item Proposal (デジタルアーカイブの利活用のための国際標準)
P.40-50	資料 2-2 ISO/CD 20247(International Library Item Identifier 国際図書館資料識別子)投票案
P.51-63	資料 3 ISO/TC46/SC9 ウェリントン会議報告書
P.64-65	資料 4-1 ISO/TC46/SC9 国内審議 投票済案件
P.66	資料 4-2 ISO/TC46/SC9 国内審議 投票審議案件

5. 議事：

今回から新メンバーとして前沢氏が久保田氏の後任として SC9 国内委員会に加わることとなり、挨拶と各委員から自己紹介を行った。

以下、配布資料に基づき報告。前回議事録は確認された。

1) 平成28年度実施計画について

資料1を元に宮澤委員長代理より説明。

P.11-20は平成28年度のTC46委員会の事業計画書。経済産業省（直接には事業管理を行っている三菱総研）に提出している。デジタルアーカイブの利活用に関する国際標準化をテーマとして、以下の2つの国際規格を策定することを目的としたものであり、その環境整備のために国内審議団体を運営する形になっている。

デジタルアーカイブの利活用のための国際標準化

デジタルアーカイブのWebページに権利情報を表示するガイドラインを整備するための標準。新規規格（NWIP）として提案を行う。

デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子

図書館等で管理する原資料を識別するための識別子（ILII）。開発が進んでおり、DIS投票まですすめる。

2) 計画進捗状況報告

資料2-1、2-2を元に宮澤委員長代理より説明。

デジタルアーカイブの利活用のための国際標準化

最新の進捗状況としては、7/3に事務局からSC9事務局とSC9 ChairにNWIPを提出した。P.29-39が提出した資料。本体部分はP37-39のみだが、今後の検討次第で記述を厚くする可能性もある。

デジタルアーカイブの画面のうち、トップページ、検索画面、検索結果、1件ごとのメタデータのページ、アーカイブ画像のページ、利用許諾の申し込みページ等に分類する、権利情報のページを一般/詳細情報等に分けてどのページにこういった権利情報を表示するか（リンクを張るか）といったガイドラインとなるものを作成している。今後の日程はSC9事務局の動き次第だが、7月中にNWIPが各国に送付されれば3か月以内で投票が終了する見込み。

デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子（ILII）

P.40がCD（CommitteeDraft）投票のフォーム。P.42-50がCD20247の資料。7/16が投票期限となっており、Web上で投票・集計が行われるので即日で結果は判明す

る。投票が締め切られると各国からのコメントが届くので、国際WG13でコメントに対する回答を作成する。その過程で必要があれば国内WG2を開催して日本としての立場を検討する予定。

### 3) ISO/TC46/SC9 ウェリントン会議報告

宮澤委員長代理より概要を説明。TC46ウェリントン総会は5月8～12日の日程で開催され、日本からは3名(宮澤・松田・保坂SC11リーダー)が参加した。P.51-56はTC46総会、P.57-61がSC9総会、P.62-63がSC9WG13(ILII)分科会の報告書。TC46総会は形式的なもので、実質的な審議は各SCで行われている。トピックとしては、ISO/CSよりTC46に派遣されるTPM(Technical Program Manager)がTC46総会にここ数年参加しておらず、その事に抗議する旨が各SC及びTC46総会の決議(Resolution)に加えられた。

SC9総会及びWG13については松田委員より報告。

#### ISO/TC46 SC9WG13(ILII)

WG13は各国が推薦した専門家(Expert)により構成されたILIIについての分科会である。ウェリントンでは3名のExpert(参加予定の残り2名は欠席)とオブザーバーが参加して、今後の開発スケジュールを中心に議論された。昨年秋にWorking DraftをSC9事務局に提出した後の進捗が確認できなかったため原因を確認したところ、SC9事務局のスタッフ側の問題で進捗が滞っていたことが判明し、事務局担当者より謝罪があった。開発を速やかに進めるため、CD投票の開始期限をSC9総会での決議に加えるようカナダのExpertより提案があり、実際にSC9総会において採択された。これにより5月16日に無事CD投票が開始された。

宮澤委員長代理より以下の補足があった。CD投票は標準では3か月間だが、今回は開始が遅れたため投票期間は2か月に設定され、7月16日が期限となった。

#### ISO/TC46 SC9 Plenary meeting(SC9総会)

SC9 Plenary meetingはSC9の全体総会であり、日本からは宮澤委員長代理と松田が参加した。SC9のこの1年間の活動報告、ISO Directives(ISO開発のルール)に関する変更点の説明、SC9傘下の各WGやRAからの進捗報告、昨年及び今年の規格改定(Systematic Review)の結果(予定)などについて報告された。DirectivesについてはTPM欠席のため、SC9事務局より投票期間を月単位でなく週単位とすることなどが報告された。

ISO3297(ISSN)については昨年度にISSN付与を無料とする文言の削除が投票により可決されたが、これはISO/CSから「ISOと国際RAとの間の契約に係る料金については規格本体に記載できない」という指摘を受けたことによる、と担当者

より説明された。日本のISSNセンターはこの改訂が将来的に課金ポリシーの導入を招く可能性を懸念しており、その影響について十分な説明が国際ISSNセンターからなされなかったため反対意見を表明しており、これを受けて日本からは反対票を投じている。

またISRCについては4/7にDIS投票が開始されたことが報告された（投票期限は7/6）。

今後の予定の中で、デジタルアーカイブの利活用のための国際標準のプレゼンを宮澤委員長代理が行った。多くの質疑が寄せられ関心の深さがうかがえたが、今後の検討過程でスコープの詳細化が必要と思われた。NWIP提出については歓迎する旨が了解されたので、6-7月頃にNWIP提出を予定と宮澤委員長代理より回答し、その後8-9月頃には投票手続きが行えるだろうという見通しが事務局より示された。

宮澤委員長代理より以下の補足があった。

ISSNの改訂については、minor revisionで処理されることが決まったが、無料条項を削るのはeditorial changeとはいえず、minor revisionのdirectives上の要件を満たさない。にもかかわらずこのような処置になったのは、ISO/CSとTPM側の強い指導によるものだったようである。各国RAに関する規定を標準本体から外させるというISO/CSの方針はdirectivesの厳守ということであろうが、その一方でminor revisionを押し通すというdirectivesの軽視を行うのは、筋が通らない。進め方に関し、conflictがあるように感じられる。

次にISO690の改訂について、ISO 690は、論文などのリファレンスの書き方を規定しており、-2が電子媒体を対象としているが、古いものなので全体として改訂すべきという意見が強い。そのためconfirmの票数を満たしてはいるが、おそらくアメリカからNWIPが提出される。今後の日本の対応について、準備しておく必要がある。

以下、690の改訂に関する質疑応答：

この規格とSIST02との関係は？

SIST02も電子媒体のリファレンスについて言及はされている。

)SIST02は元々ISO690を参考にして作られた。当時は国際標準との整合性に関してあまり厳密性が求められない時代であった。その後ISO690-2が開発され、当委員会の前身で議論されたが、電子媒体分のみをJIS化する動きがあり、最終的にはJISとSIST02とは別々に開発がなされた。

近年は論文を書く際にもリファレンスにプログラムを付して追試験が行えるようにしたり、バイオ分野でも生データを添付したりするなど、以前とは大分変わってきている。

実際にISO690を全面改定するとなれば国内でも関心を示すところは多い

と思われるが、SISTは既に更新を停止しており、ISO690の受け手が不明確になっている。どう対応するかは今後検討する必要がある。なお実態としては国際的な学会ごとに定められたリファレンスの記載方式を採用している所が多いが、規模が大きくない学会などはISO690を参考に行っている場合がある。

最後にISO21047 (ISLI) について。中国からの提案で昨年出版された国際標準だが、実態がよく分からない。今後関係するかどうか不明なので、一応留意しておいた方が良いでしょう。

#### 4) ISO/TC46/SC9国内審議について

資料4-1、4-2を元に宮澤委員長代理より説明。今年審議・投票済の案件は6件あり、それぞれ各委員に取りまとめを担当していただいた。ILIIのCD投票も含まれており、Yesで投票した。今後の投票案件としては、ISSNの改訂 (Systematic Review) がある。回答期限は9/15まで。

回答方針について以下の意見があった。

ISSNは昨年度にCIB投票で無料条項の削除が可決されたが、今回のSR投票はどちらの版を対象とみればよいのか。

添付されていたのは旧版だった。日本のISSNセンターとしては、CIB投票で文言の削除は決定しており、その後の定期見直しとして考えた場合、ISSN自体の内容に積極的に変更したい箇所がある訳ではないので、Confirmでよいという意見を示している。

ISSN自体は安定的に運用されている規格であり、問題があるわけでもないので、最終結論はメーリングリスト上で出すが、Confirmで回答すると思われる。

#### 5) その他

ISO3901 (ISRC) について。DIS投票後に改訂内容が確定して国際標準になった際に、JISX 0308の改訂が必要になる。その進め方について。日本規格協会 (JSA) に相談することになるのか？

JISの改訂はJSAがJISCから委託を受けて行っている。JSAが原案作成団体と相談の上、必要があれば改訂のプロジェクトを立ち上げることになる。原案作成団体は当委員会になるため、JIS改訂が必要な理由をJSAに提出することになる。誰が担当するのが問題。必要な費用はJSAから出してもらって、改訂のメンバーを集めて作業することになる。当委員会としてはいつ開始していつ終わらせるかを定めたうえで、JSAの公募に応じることになる。

改訂が決まった後に動き始めることとしたい。

JSAの公募は年2回程度だったと思われる。

過去に2回改訂したことがあり、その時は菅野委員長と畑とあと1-2人で担当した。

内容が分かる人と、JISの日本語に精通した人がいると良い。多くとも5-6人でWGを作ることになる。

ISBNのJISX 0305の改訂の話も以前にあり、古い版の改訂(翻訳)作業が途中まで進んだところでISO本体の改訂が始まってしまい、JISの改訂の方は保留になっている。今後、ISOの改訂が確定すれば、保留していたJISの作業が再開されるという認識である。当時は菅野委員長と木俣とJSA木本氏でWGを構成し、当時のこの委員会で意見を聞き翻訳がかなり進んだ所で止まっている。

ISOの改訂版が出版されれば、それに対応したJISの日本語版を作成することを当委員会として了解するのであれば、しかるべき時期にJSAの公募に応じて進めることになる。

その場合、以前の翻訳の成果を使える部分はあまりない。

作業にどの程度の期間がかかるかという作業量とスケジュール、当委員会として改訂したい意見をもって、JSAに応募する手順になる。当委員会としては、ISRCとISBNのJIS改訂について、進めるべきであるという結論で良いか？

(一同了解)

以後は事務局を通してJSAと相談する。宮澤と事務局の方で進めることとする。

P.59の報告にある各国RAに関するSC9事務局とCSの協議は、進捗があれば何らかの連絡があるのか？

ない。各標準の内容にその時ごとの合意事項が織り込まれるのみである。それ以外にISOの公式の協議結果の発表というものはない。

了解した。

(以上)